



ナイター設備の計画にあたっては、隣接する鉄道の電車運転手や周辺の住宅への障害光調査を行い、VRIによる障害光確認のシミュレーションも実施。環境省の光害対策ガイドラインに適合するように照明計画を行い、6基ある照明塔によりスタジアム内をムラなく照明している

ゼロカーボンベースボールパーク 日鉄鋼板 SGLスタジアム 尼崎

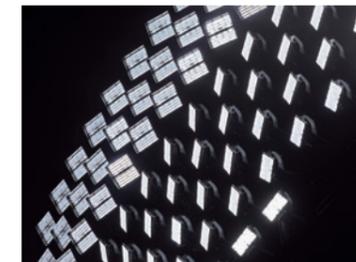
野球施設初、球場でZEB Oriented、付帯施設でNearly ZEB認証を取得
2025年3月、阪神タイガースのファーム本拠地が、兵庫県尼崎市の小田南公園内の「日鉄鋼板SGLスタジアム尼崎」に移転。ファーム公式戦を開催するスタジアムや室内練習場、選手寮「虎風荘」などが新設され、軟式野球場や広場、周遊コースも備えた「ゼロカーボンベースボールパーク」として誕生した。スタジアムのフィールドは両翼95m・中堅118mと阪神甲子園球場と同一に設計されており、将来1軍に羽ばたく選手たちに甲子園と同じ感覚でプレーさせる狙いがある。設計段階から環境配慮型の球場づくりが進められ、照明設備としては、

環境省の光害対策ガイドラインに適合するように照明計画を行い、111台の高効率投光器を搭載した照明塔を6基設置（総台数666台）。執務室や共用部のLED照明は人感センサや明るさセンサを組み合わせることでエネルギー消費量を大幅に削減。また、建物への熱負荷抑制や高効率の空調・換気機器の採用により基準一次エネルギー消費量を削減し、スタジアムはZEB Oriented認証を取得している。さらに、隣接する室内練習場と虎風荘（1階部分）もNearly ZEB認証を取得することで、野球施設として国内初のZEB認証事例となった。これは、スポーツ施設における環境配慮建築の先駆けで、今後のモデルケースとして期待されている。

日鉄鋼板 SGLスタジアム 尼崎
所在地 / 兵庫県尼崎市杭瀬南新町
事業主 / 阪神電気鉄道株式会社
管理・運営 / 株式会社阪神タイガース
CM / 阪急コンストラクション・マネジメント株式会社
設計・監理 / 株式会社久米設計
建築工事 / 株式会社熊谷組
電気工事 / 中央電設株式会社
開業 / 2025年3月
規模 / スタジアム 約10,918m²



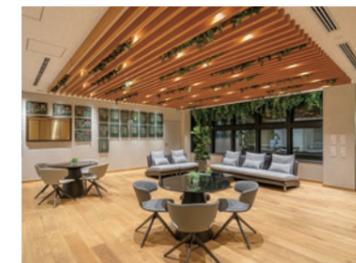
照明塔には、テレビ放送やイベントにも配慮したRa80のLED投光器を搭載



競技者に対する不快グレアや光漏れを低減するようにきめ細かく角度調整された投光器



室内練習場に設置されたLED高天井用照明器具



選手寮（虎風荘）1階ラウンジのLEDダウンライト



パーク内の円形広場の足元を照らす間接照明



公園内遊歩道に設置されたLED庭園灯

ゼロカーボンベースボールパーク



- ① 日鉄鋼板 SGLスタジアム 尼崎
- ② 小田南公園軟式野球場
- ③ 阪神タイガース練習場
- ④ 小田南公園広場
- ⑤ 選手寮「虎風荘」
- ⑥ 阪神タイガース室内練習場

主な納入設備

- LED投光器
- 光害対策器具
- LED高天井用器具
- LEDダウンライト
- LED建築化照明
- LED庭園灯